

2012年8月8日 全13頁

ASEAN NOW (Vol. 15)

アセアンへの外国人観光客事情

経済調査部
佐藤 清一郎

[要約]

- 外国人観光客数の増加は、旅行サービス輸出増や消費増を通じて訪問国の経済活動にプラスとなる。2011年、世界の観光収入は、初めて1兆ドルを超えた。観光収入上位国は、1位米国、2位スペイン、3位フランス、4位中国、5位イタリア等となっている。アセアン加盟国では、タイ、マレーシア、シンガポールが10～15位の位置にある。
- GDPに占める観光収入割合を見ると、観光収入が上位にある欧米や中国に比べて、タイ、マレーシア、シンガポールの方が高く、より観光が重要産業になっている。2008年、アセアンへの外国人観光客数は約6,500万人だったが、2011年には、約1,600万人増加して、約8,100万人となった。増加数が多かった国は、タイ450万人、シンガポール300万人、マレーシア270万人である。
- アセアン加盟国で観光客数が多いのは、マレーシア、タイ、シンガポール、一方で、それ程多くないのは、インドネシア、ベトナム、フィリピン、カンボジア、ラオス、ミャンマーである。マレーシアやシンガポールは、観光を戦略産業と位置付け種々の施策を実施しており、その効果が出ているものと思われる。
- 外国人観光客数を域内と域外に分けて見ると、域内からの割合が大きいのは、マレーシア、ラオス、域外からの割合が大きいのは、タイ、ベトナム、フィリピンである。インドネシアとシンガポールは、域内からと域外からがほぼ同じような割合である。アセアン域外からの観光客数は、中国、オーストラリア、韓国、日本等の周辺国を中心に多くなっている。2011年のアセアンへの観光客数の伸びを見ると、増加率が高いのは、中国(前年比+35.1%)、ニュージーランド(同+33.7%)である。
- タイ、マレーシア、シンガポールを筆頭に、アセアン加盟国のすべてで外国人観光客数が増加方向にあることはアセアンの経済成長にプラスとなるであろう。

1. 世界の観光事情

外国人観光客数の増加は、旅行サービス輸出増や消費増を通じて、訪問国経済にプラスの影響をもたらす。2011年、世界全体の観光収入は1兆300億ドルとなり、初めて1兆ドルを超えた。国別で見ると、収入が多い順に、米国、スペイン、フランス、中国、イタリア、ドイツ、英国等となっている。金額では、米国が極めて大きく、世界全体の11.2%を占めている。米国は、ニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコ、シカゴ等の主要な観光都市がある他、フロリダ、ハワイ等のリゾートが存在することで代表的観光国ということが言える。米国以外で観光収入が上位にあるのは、ほとんどが欧州の国々である。欧州の国々は、美術館、博物館、ショッピング、ビーチリゾート、歴史的遺跡等の観光資源に恵まれていることに加え、欧州域内でのパスポートコントロール、空港設備、観光地での標識への工夫、主要観光拠点を巡るバス等旅行者の利便性を考慮した様々な工夫が行われていることが人気を高めていると思われる。このような欧米優位の状況の中で、4番目に中国が入っている。中国は、北京、上海、西安、大連等の主要都市の他、様々な歴史遺産や壮大な自然遺産・風景等が存在することで観光客への人気があると思われる。

アセアン加盟国に目を向けると、観光収入が一番多いのはタイである。タイの観光収入は、アジアでは中国、香港に次いで3番目である。タイに続いて収入が多いのは、マレーシア、シンガポールである。この2国の観光収入は、ほぼ同じである。次に、観光収入がどの程度経済全体に影響しているかを見るために、GDPに占める観光収入割合を見ると、世界全体では1.5%である。平均より低い国は、中国(0.7%)、米国(0.8%)、ドイツ(1.1%)等、一方で平均より高い国・地域は、香港(11.2%)、タイ(7.6%)、シンガポール(6.9%)、マレーシア(6.6%)等である。タイ、マレーシア、シンガポールの方が、欧米や中国と比べてGDPに占める観光収入の割合が大きく、観光への依存度が大きいことがわかる。

図表 1 観光収入の上位国・地域 (2011年)

	観光収入 (10億ドル)	名目GDP (10億ドル)	対GDP比 (%)
米国	116	15,094	0.8
スペイン	60	1,494	4.0
フランス	54	2,776	1.9
中国	49	7,298	0.7
イタリア	43	2,199	2.0
ドイツ	39	3,577	1.1
英国	36	2,418	1.5
オーストラリア	31	1,488	2.1
香港	27	243	11.2
タイ	26	346	7.6
トルコ	23	778	3.0
オーストリア	20	419	4.7
マレーシア	18	279	6.6
シンガポール	18	260	6.9
世界全体	1,030	69,660	1.5

出所：世界観光機関、IMF より大和総研作成

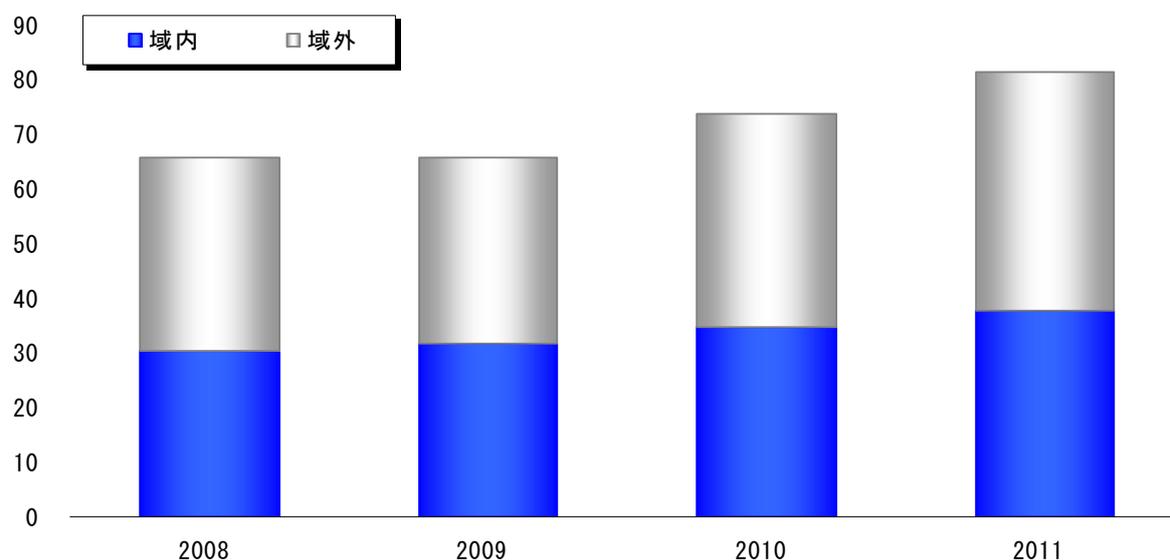
2. アセアンへの外国人観光客数

アセアンへの外国人観光客数は増加方向にある。2008 年のアセアンへの外国人観光客数は約 6,500 万人であったが、2011 年には約 8,100 万人と、約 1,600 万人の増加となっている。増加幅の大きな国を見ると、タイ(450 万人増)、シンガポール(300 万人増)、マレーシア(270 万人増)等となっている。

タイ、マレーシア、シンガポールへの外国人観光客数が増加してきている背景には、(1)これらの国の立地が観光ハブとなりうるような場所にあること、(2)順調な成長に伴うアセアン加盟国民の所得向上、(3)観光を戦略産業として位置付けようとする加盟国の政策努力等があると思われる。外国からの観光客の増加は、旅行サービス輸出増や訪問先での消費への期待等から経済成長にプラスとなるので、タイ、マレーシア、シンガポール等を中心に観光客が増加方向にあることは、アセアン経済にとっては好ましい状況と言えよう。

観光客をアセアン域内と域外に分けて見ると、2008 年、約 6,500 万人の内、域内からの観光客数は約 3,000 万人で全体の 5 割弱、域外からの観光客数は約 3,500 万人で全体の 5 割強となっている。その後も、域内と域外の比率はあまり変化なく、2011 年では、域内が 46.5%、域外が 53.5%となっている。アセアン全体として見た場合、域内と域外からの観光客数の割合は、ほぼ同じとなっている。

図表 2 アセアンへの外国人観光客数の推移 (単位：百万人)



出所：アセアン事務局より大和総研作成

3. アセアン加盟国別に見た外国人観光客数

外国人観光客数の動きをアセアン加盟国で見ると、国ごとに状況が異なる。2011年、観光客の訪問者数が多い順番で見ると、マレーシア(約2,500万人)、タイ(約1,900万人)、シンガポール(約1,300万人)となっている。マレーシアの人口が約2,800万人、シンガポールの人口が約500万人であることを考えると、これら2国への観光客数は極めて多く、まさに観光大国と言ってよいだろう。これらの国はいずれも、観光を国の重要産業と位置付けて様々な政策を実施している。タイは、アユタヤ遺跡等の世界遺産の他、プーケット島に代表される有名なビーチリゾートを有することで根強い人気があるとみられる。これらの国に次いで外国人観光客数が多いのは、インドネシア(約760万人)、ベトナム(約600人)、フィリピン(約390万人)である。インドネシアは、ジャカルタ、スラバヤ、ボロブドゥール寺院、ボゴール植物園、バリ島等があるわりには観光客数はそれ程多くない。ベトナムも、ハノイ、ホーチミンの2大都市の他にハロン湾や中部ダナンにはビーチリゾートがあるわりには観光客数は多くない。タイ、マレーシア、シンガポールとインドネシアやベトナムを比較した場合、空港での入出国手続き、空港とホテルの移動、ホテル内の設備やサービス、治安等の面で、観光客にとってストレスになることが多くある。観光資源の有無だけでなく、こうしたことも観光客数が伸びない理由であろう。ラオス、カンボジア、ミャンマーへの観光客数は、まだそれ程多くない。これらの国も、治安、道路、ホテル、空港等の点で課題が多く残っていると思われる。特に、カンボジアは、アンコールワット、アンコールトムという貴重な遺跡が存在するが、入国手続き、道路舗装状況、ホテル数、ホテル設備、レストラン数等に関して改善すべき点が多くある。

図表 3 アセアンへの外国人観光客数(加盟国別)の推移(単位:千人)

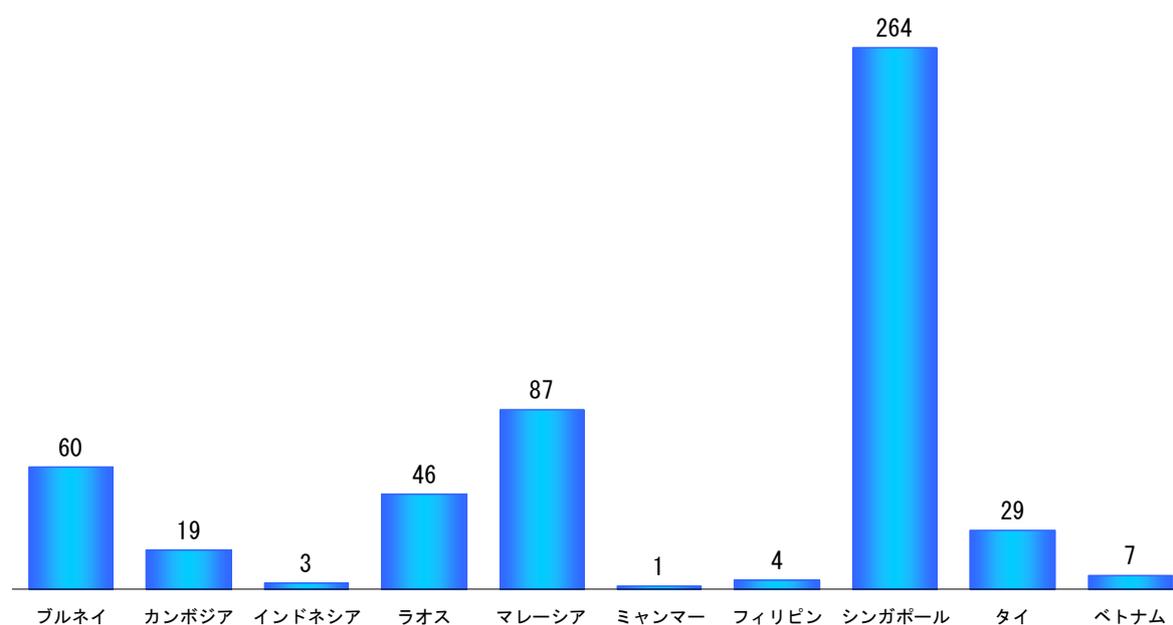
国名	2008			2009			2010			2011		
	域内	域外	全体									
ブルネイ	98.0	127.7	225.8	77.7	79.7	157.5	109.9	104.4	214.3	124.2	117.9	242.1
カンボジア	552.5	1,573.0	2,125.5	692.8	1,468.8	2,161.6	853.2	1,655.1	2,508.3	1,101.1	1,780.8	2,881.9
インドネシア	2,774.7	3,654.3	6,429.0	2,101.8	4,221.9	6,323.7	2,338.5	4,664.4	7,002.9	3,258.5	4,391.2	7,649.7
ラオス	1,285.5	719.3	2,004.8	1,611.0	397.4	2,008.4	1,990.9	522.1	2,513.0	2,191.2	532.3	2,723.6
マレーシア	16,637.0	5,415.5	22,052.5	18,386.4	5,259.8	23,646.2	18,937.2	5,640.0	24,577.2	18,885.3	5,829.0	24,714.3
ミャンマー	462.5	198.3	660.8	524.0	238.5	762.5	512.3	279.2	791.5	100.4	716.0	816.4
フィリピン	254.1	2,885.3	3,139.4	255.6	2,761.5	3,017.1	298.2	3,222.3	3,520.5	331.7	3,585.8	3,917.5
シンガポール	3,571.4	6,545.1	10,116.5	3,650.9	6,030.3	9,681.3	4,779.6	6,859.0	11,638.7	5,372.2	7,799.1	13,171.3
タイ	4,125.2	10,472.3	14,597.5	4,074.7	10,075.2	14,149.8	4,534.2	11,402.2	15,936.4	5,529.9	13,568.4	19,098.3
ベトナム	515.6	3,738.2	4,253.7	318.9	3,453.3	3,772.3	465.9	4,584.0	5,049.9	838.4	5,175.6	6,014.0
アセアン全体	30,276.4	35,329.1	65,605.5	31,693.8	33,986.5	65,680.3	34,820.0	38,932.7	73,752.6	37,732.9	43,496.1	81,229.0

出所: アセアン事務局より大和総研作成

逆に言えば、観光を、より積極的な形で戦略産業として位置づけ集中して取り組みを行えば、観光客増加による旅行収支改善や消費増を通じて経済にプラス効果をもたらせる可能性を十分に残しているということである。

次に、外国人観光客数の大きさを人口規模との比較で見ると、一番割合が高いのがシンガポールで 264%、次がマレーシアで 87%である。前述のように、これら 2 国の観光客数は、アセアンの他の国と比較して極めて多い。これらの国以外で割合が大きな国は、ブルネイ (60%)、ラオス (46%)、タイ (29%)、カンボジア (19%)、逆に割合が低い国は、ベトナム 7%、フィリピン 4%、インドネシア 3%、ミャンマー 1%となっている。

図表 4 人口規模に対する外国人観光客数の割合 (%)



出所：アセアン事務局より大和総研作成

4. アセアン域外からの外国人観光客数

アセアン域外からの観光客の動きを見ると、基本的にはアセアン周辺国からの観光客が多い。2011 年の全体の観光客数を 100 としたとき、中国 9.0%、オーストラリア 4.8%、韓国 4.8%、日本 4.5%、米国は 3.5%、インド 3.3%等となっている。また、国ではないが欧州地域全体としては、中国と同じ 9.0%の割合を占めている。アジア地域は、立地的にビーチリゾートが多く、この点が欧州の国々に評価されていると思われる。

2010 年から 11 年にかけての観光客数の伸びを見ると、一番高い伸びが中国で 35.1%、次がニュージーランドで 33.7%となっている。これ以外の国々では、カナダ (19.2%)、韓国 (17.5%)、パキスタン (14.6%) 等となっている。

2008年から2011年にかけての訪問者割合の変化を見ると、中国が、2008年には、約450万人で全体の6.8%だったが、2011年には約730万人まで増加して全体の9.0%と大きくシェアを伸ばしている。中国以外でシェアを伸ばしている国は、オーストラリアとインドであるが、中国と比較すると変化幅はかなり小さい。オーストラリア(4.4%→4.8%)、インド(3.0%→3.3%)となっている。

図表 5 アセアン域外からのアセアンへの観光客

国名	外国人観光客数				地域別割合				増加率
	(千人)				(%)				(%)
	2008	2009	2010	2011	2008	2009	2010	2011	2010-2011
欧州	6,936	6,669	6,971	7,326	10.6	10.2	9.5	9.0	5.1
中国	4,471	4,202	5,416	7,316	6.8	6.4	7.3	9.0	35.1
オーストラリア	2,905	3,029	3,465	3,926	4.4	4.6	4.7	4.8	13.3
韓国	2,657	2,449	3,286	3,862	4.1	3.7	4.5	4.8	17.5
日本	3,624	3,214	3,351	3,664	5.5	4.9	4.5	4.5	9.4
米国	2,653	2,553	2,680	2,838	4.0	3.9	3.6	3.5	5.9
インド	1,985	2,104	2,478	2,711	3.0	3.2	3.4	3.3	9.4
カナダ	509	456	499	594	0.8	0.7	0.7	0.7	19.2
ニュージーランド	320	272	292	390	0.5	0.4	0.4	0.5	33.7
パキスタン	151	159	92	106	0.2	0.2	0.1	0.1	14.6
その他	9,119	8,881	10,402	10,762	13.9	13.5	14.1	13.2	3.5
域内	30,276	31,694	34,820	37,733	46.1	48.3	47.2	46.5	8.4
アセアン全体	65,605	65,680	73,753	81,229	100.0	100.0	100.0	100.0	10.1

出所：アセアン事務局より大和総研作成

次に、観光客数全体を100としたとき、域内と域外でどのような割合となっているかを見ると、域外からの観光客の割合が高い国は、フィリピン(91.5%)、ミャンマー(87.7%)、ベトナム(86.1%)、タイ(71.0%)、カンボジア(61.8%)となっている。フィリピンへの域外からの観光客数の割合が高いのは、島国であり他のアセアン加盟国と距離があること、英語を話す人が多いこと等があると考えられる。逆に、域外からの観光客割合が低い国は、ラオス(19.5%)、マレーシア(23.6%)となっている。ラオスは人口規模が小さいことや対外開放政策が不十分なこと、マレーシアは、シンガポール経由での入国が多いという地理的要因が働いていると思われる。域内と域外からの観光客数が、ほぼ同じような割合となっている国は、ブルネイ、インドネシア、シンガポールである。シンガポールは、「ユア・シンガポール」を基本コンセプトに、総合リゾートである「マリーナ・ベイ・サンズ」やユニバーサル・スタジオ・シンガポールを有する「リゾート・ワールド・セントーサ」等の開発や医療ハブを目指した医療サービス向上への取り組み等に力を注いでいる。こうしたことで、域内と域外から、万遍なく観光客を呼び込んでいるのだろう。

図表 6 アセアンへの外国人観光客数(加盟国別)の域内と域外の割合(単位: %)

国名	2008			2009			2010			2011		
	域内	域外	全体									
ブルネイ	43.4	56.6	100.0	49.4	50.6	100.0	51.3	48.7	100.0	51.3	48.7	100.0
カンボジア	26.0	74.0	100.0	32.1	67.9	100.0	34.0	66.0	100.0	38.2	61.8	100.0
インドネシア	43.2	56.8	100.0	33.2	66.8	100.0	33.4	66.6	100.0	42.6	57.4	100.0
ラオス	64.1	35.9	100.0	80.2	19.8	100.0	79.2	20.8	100.0	80.5	19.5	100.0
マレーシア	75.4	24.6	100.0	77.8	22.2	100.0	77.1	22.9	100.0	76.4	23.6	100.0
ミャンマー	70.0	30.0	100.0	68.7	31.3	100.0	64.7	35.3	100.0	12.3	87.7	100.0
フィリピン	8.1	91.9	100.0	8.5	91.5	100.0	8.5	91.5	100.0	8.5	91.5	100.0
シンガポール	35.3	64.7	100.0	37.7	62.3	100.0	41.1	58.9	100.0	40.8	59.2	100.0
タイ	28.3	71.7	100.0	28.8	71.2	100.0	28.5	71.5	100.0	29.0	71.0	100.0
ベトナム	12.1	87.9	100.0	8.5	91.5	100.0	9.2	90.8	100.0	13.9	86.1	100.0
アセアン全体	46.1	53.9	100.0	48.3	51.7	100.0	47.2	52.8	100.0	46.5	53.5	100.0

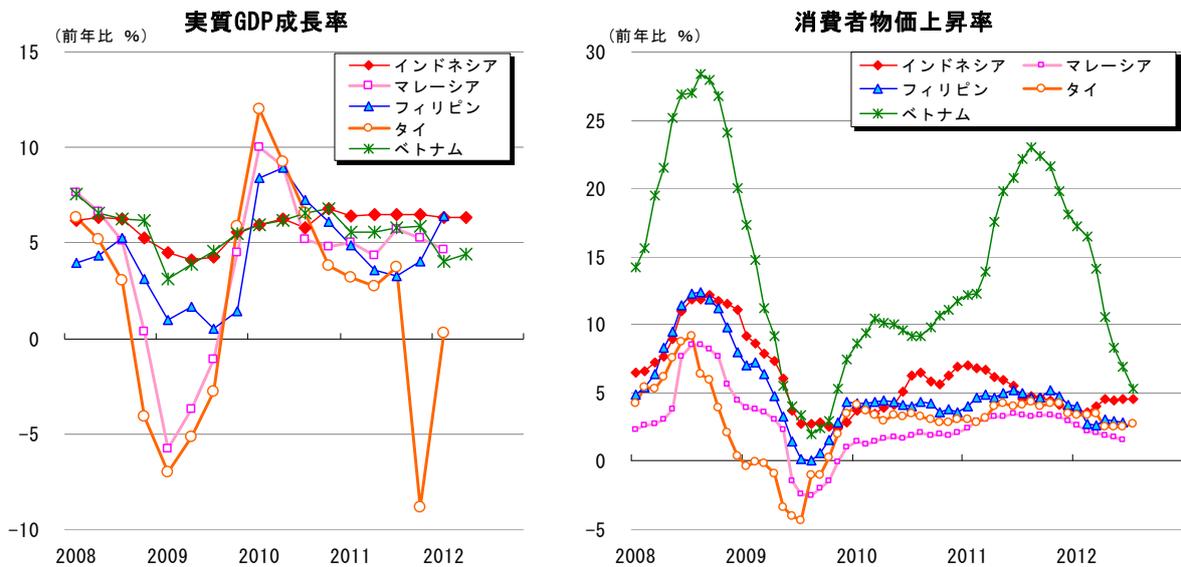
出所: アセアン事務局より大和総研作成

まとめ

世界の観光収入の上位国は、米国、欧州、中国等で占められているが、アセアン加盟国の中でも、タイ、マレーシア、シンガポールは、上位10~15位に入っている。これらの国々は、観光を国の重要産業と位置付け重点施策を実施している。GDPに占める観光収入の割合は7%程度と観光収入上位国よりも高い。この点では、観光の重要度は、タイ、マレーシア、シンガポールの方が高いと言える。外国人観光客数が増加方向となっていることは、アセアンの経済成長にプラスとなるであろう。

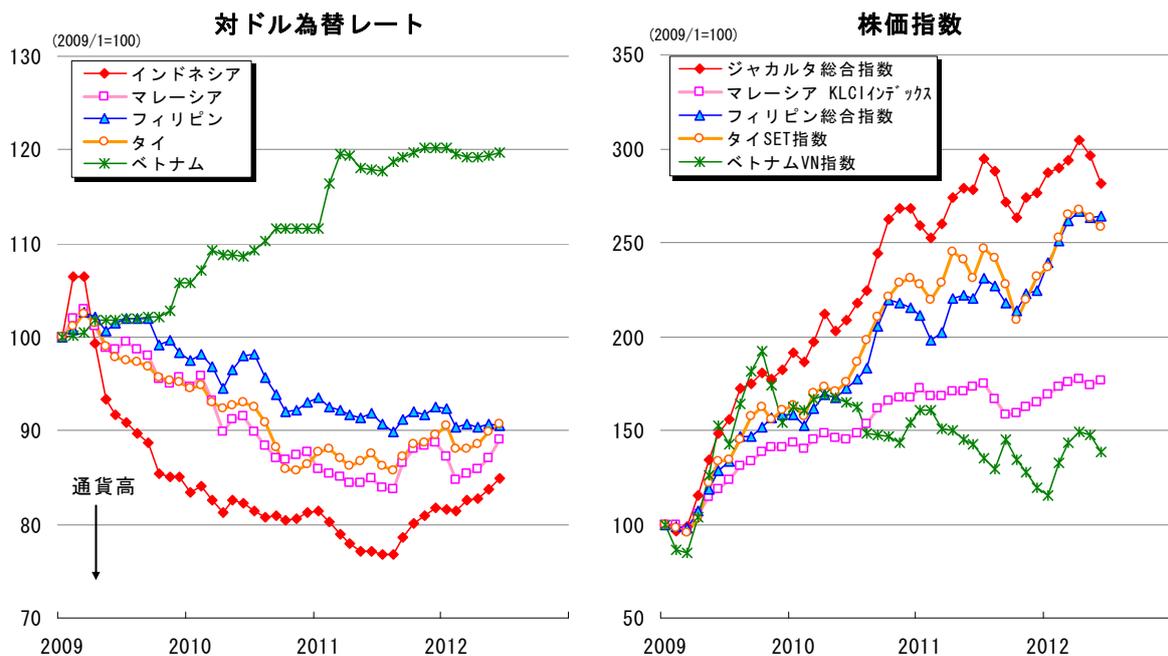
【チャート集】

チャート1 アセアン主要国の実質 GDP 成長率と消費者物価上昇率



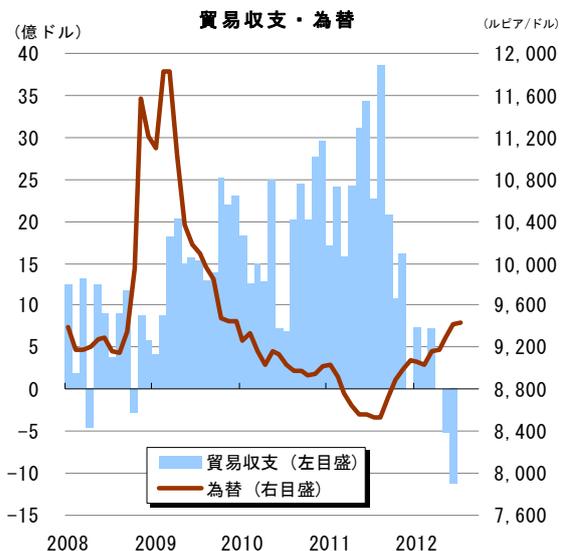
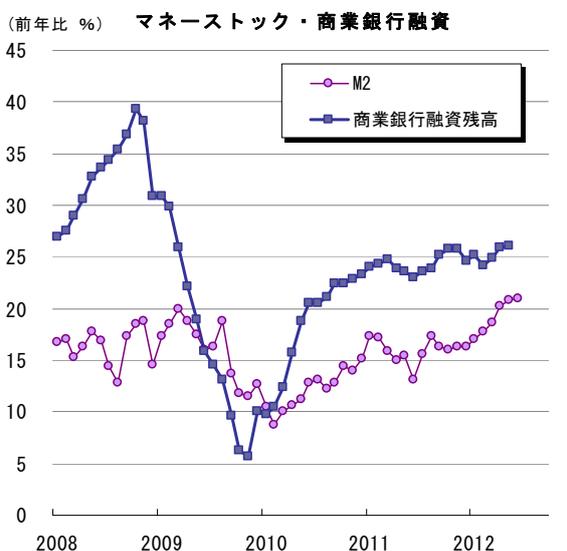
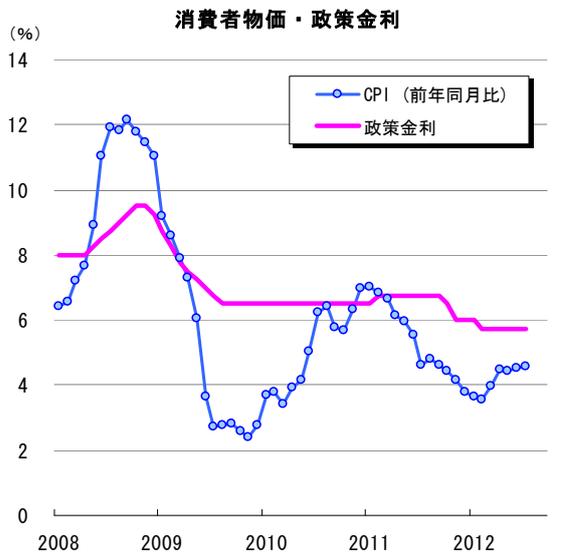
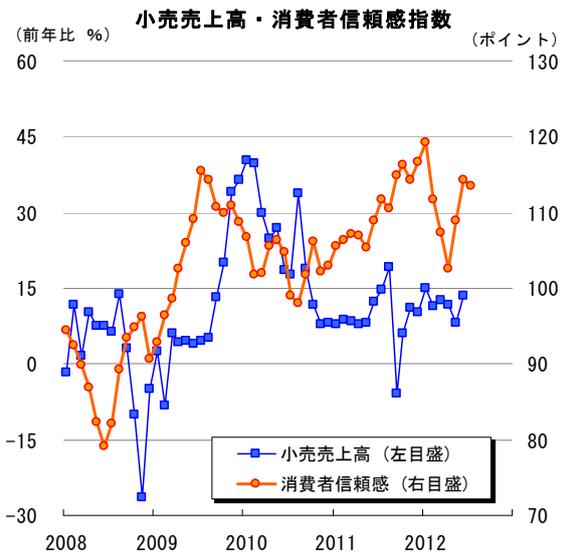
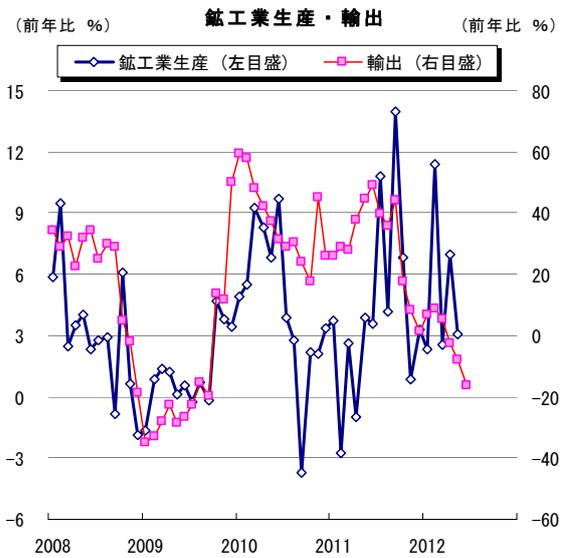
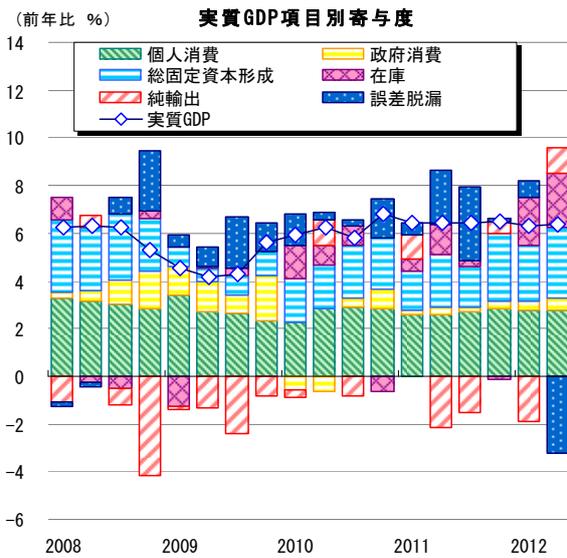
出所：Haver Analytics より大和総研作成

チャート2 アセアン主要国の為替、株価指数



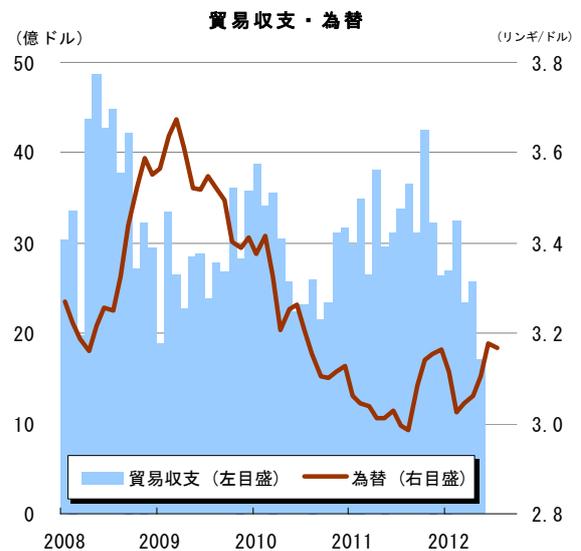
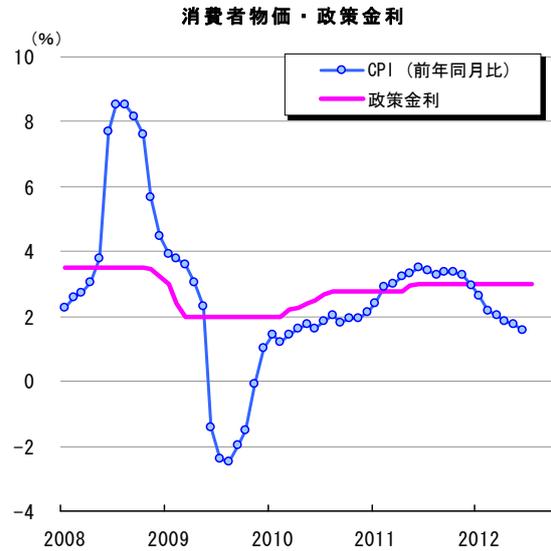
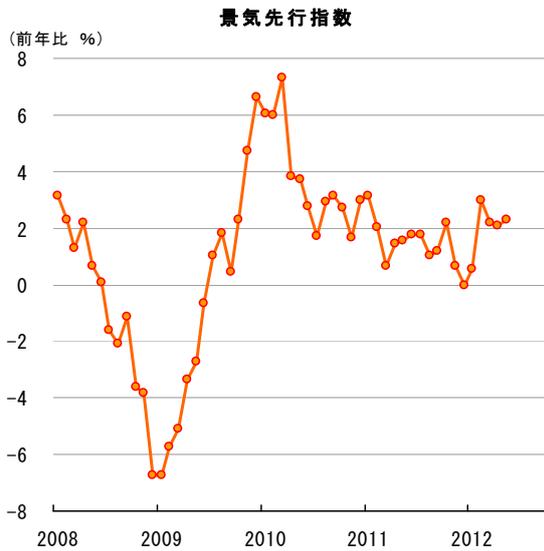
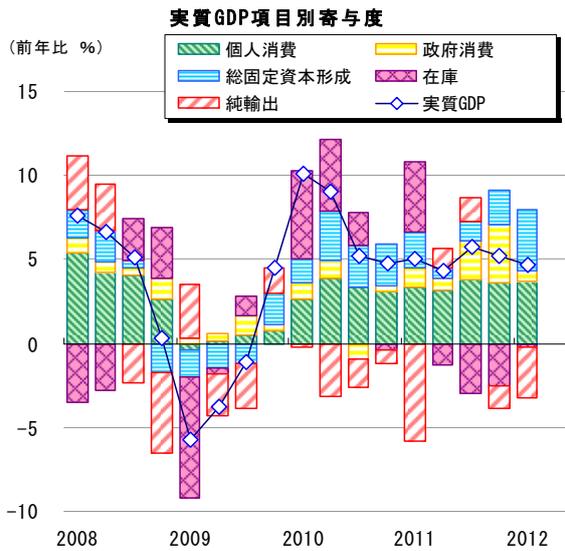
出所：Haver Analytics より大和総研作成

チャート3 インドネシアの主要経済指標



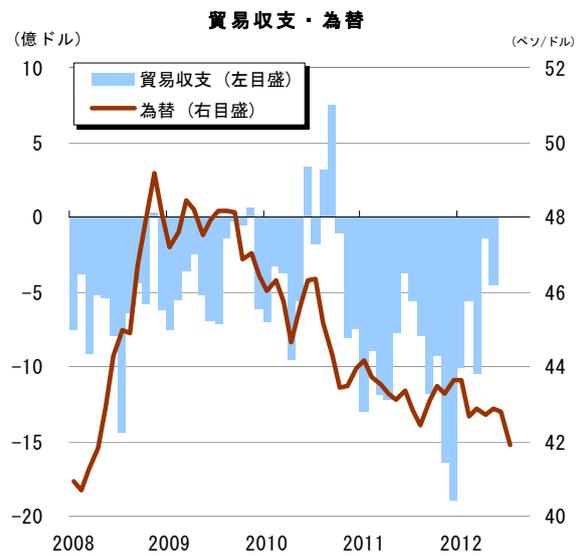
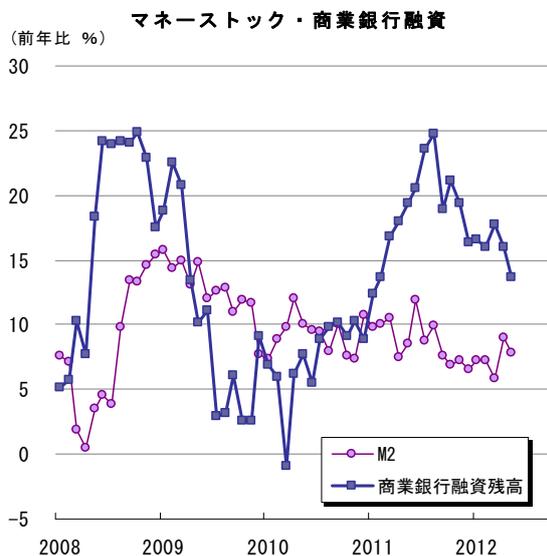
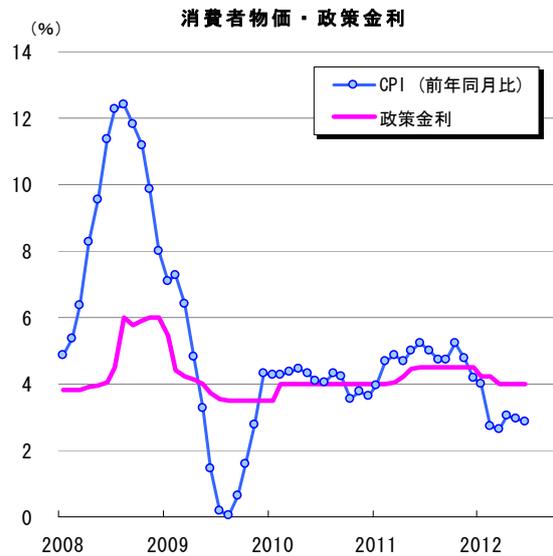
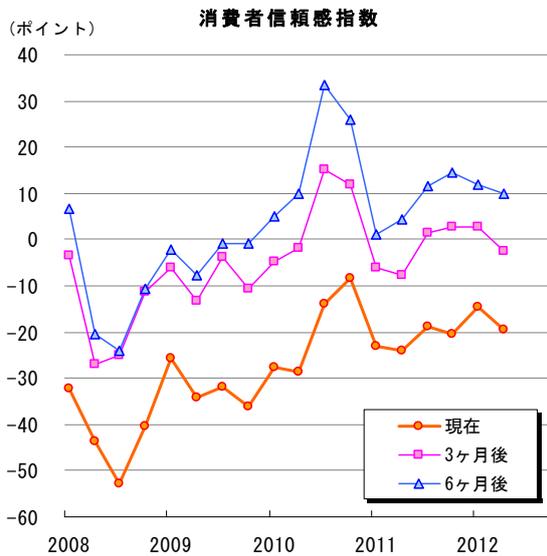
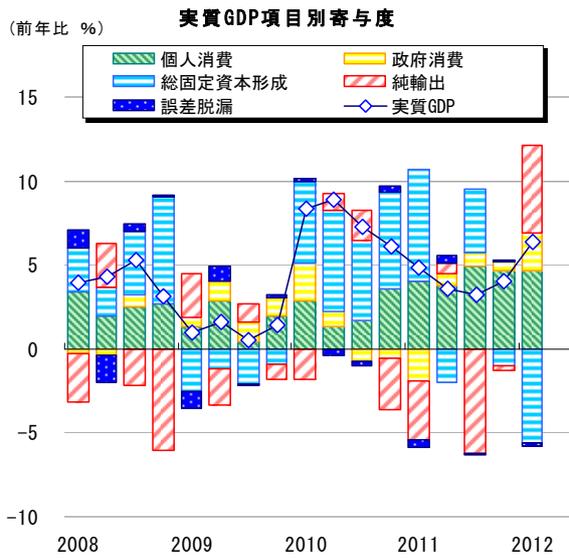
出所：Haver Analytics より大和総研作成

チャート4 マレーシアの主要経済指標



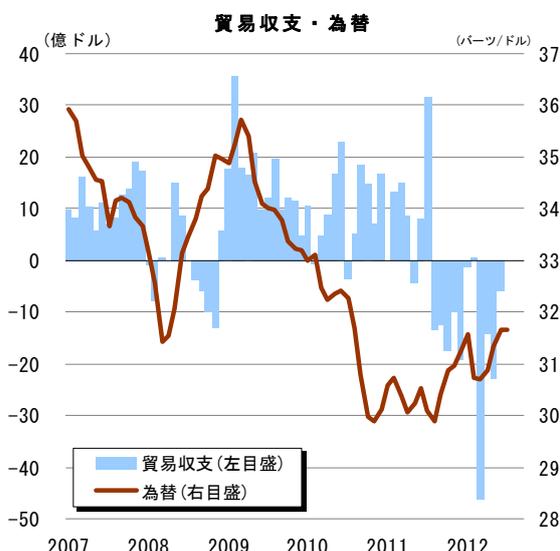
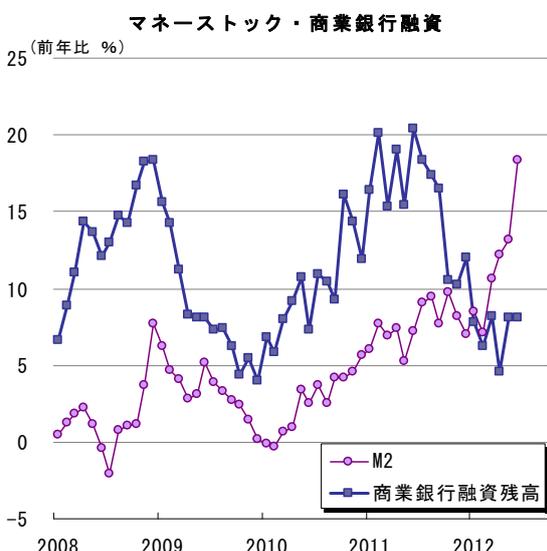
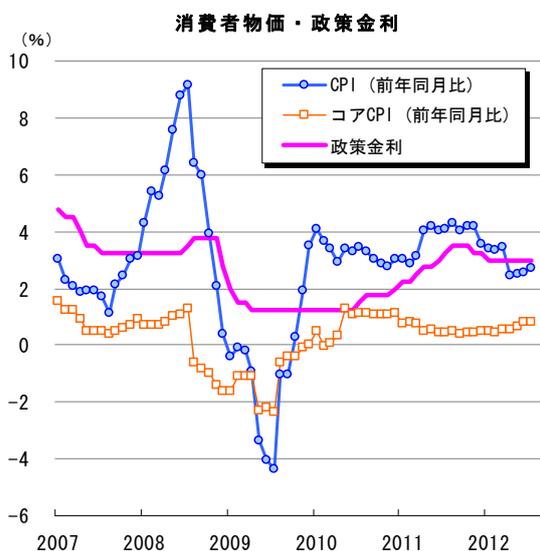
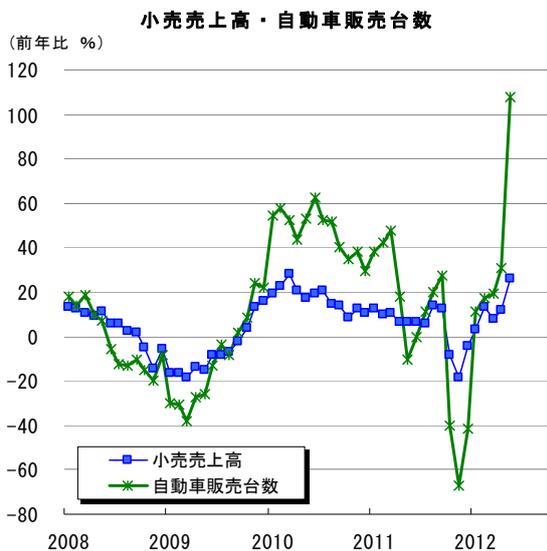
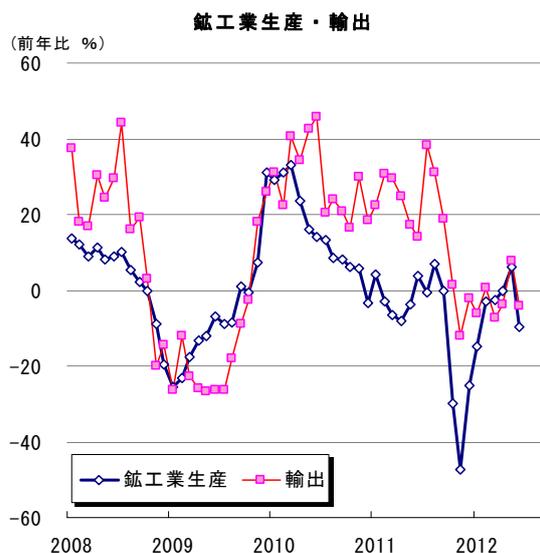
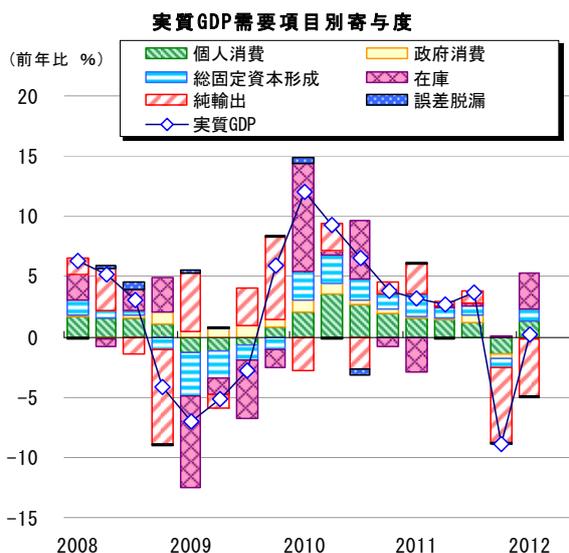
出所: Haver Analytics より大和総研作成

チャート5 フィリピンの主要経済指標



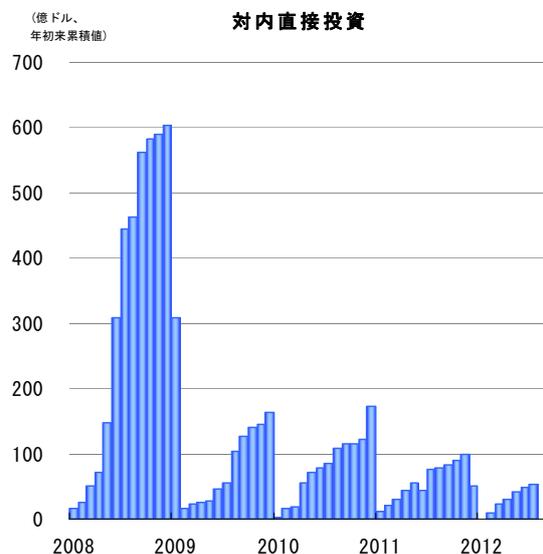
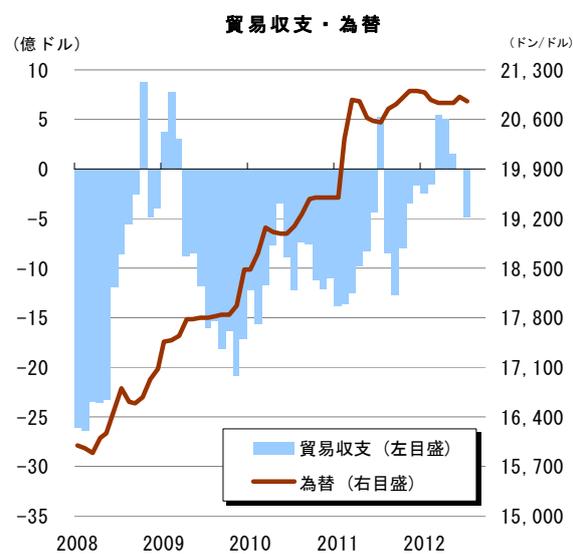
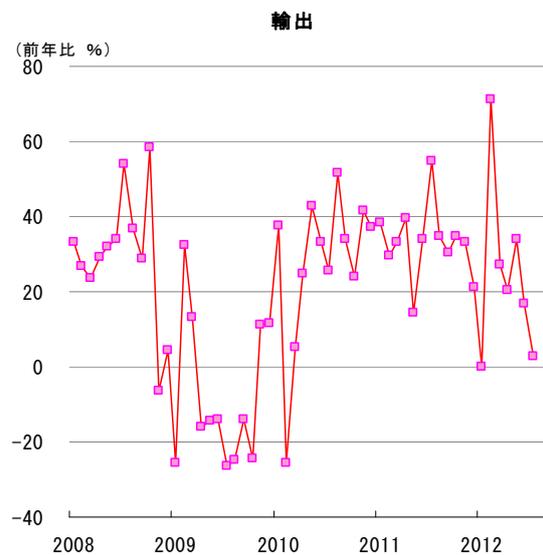
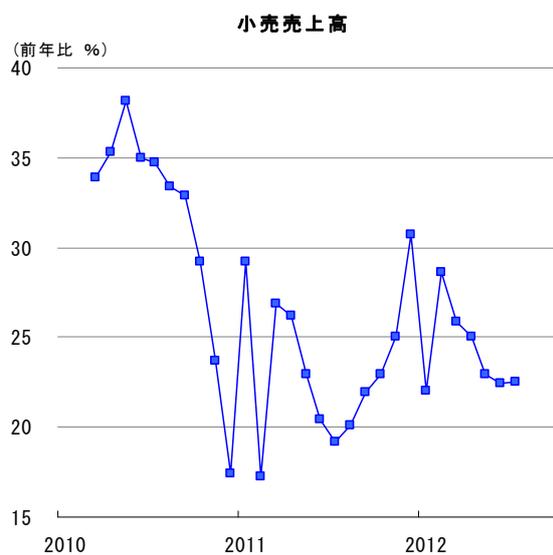
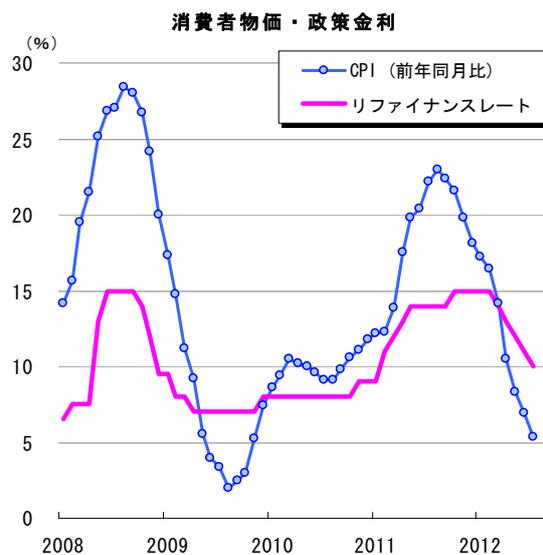
出所:Haver Analytics より大和総研作成

チャート6 タイの主要経済指標



出所: Haver Analytics より大和総研作成

チャート7 ベトナムの主要経済指標



出所：Haver Analytics より大和総研作成